

校長会広報214号

発行・一般財団法人 宮崎県校長会館
編集・宮崎県校長会
広報委員会



「誠の心で 正直に」

日南市教育委員会 教育長 都 甲 政 文

本来であれば、今年度末をもって退職される校長先生方とともに私も退職する予定であったが、5月に教育長職を拜命することとなり、新型コロナウイルス感染拡大防止への対応や、それに伴う学校再開、学校行事の判断や調整等の業務にあたってきた。

今回、このような機会を得たので、最後の勤務場所となった吾田中学校や、今まで勤務してきた学校等での思い、本職を引き受けた時の心境等を述べさせてもらいたい。

平成31年4月、20年ぶりに吾田中学校に赴任した。校舎はほとんどが当時のままで、故郷へ戻ってきたという思いであった。変わったことは、生徒数が250名程も減ったこと、弁当が給食になったこと、そして生徒の雰囲気、若干おとなしくなったことであった。5年ぶりの学校での勤務ということもあって、校長として、生徒たちの顔を毎日見られることが無性にうれしく、初任の校長時代と違い、生徒や職員のことを落ち着いて見られる感覚があった。入学式やPTA総会等の行事で声をかけてくれる、立派に成長して親となった教え子たちの顔を見ると、退職まで残り2年、しっかりと勤め上げようという意欲が湧いてきた。

教職に就いた当初から、学校は「自分の成長」や、「人と人がふれあうことのよさや、大切さ」、「ふるさと」のよさや、ありがたさを実感できる場所であり、その中で、自ら成長するために努力すること、他とつながるよさや大切さ、故郷への愛着心や将来の貢献への意欲を、実感し身に付けて巣立ってくればとの思いを一貫して持ち続けてきた。吾田中学校で校長として過ごした1年、立派な保護者となったり、地域で活躍したりしている教え子と接して、思いは通じたのではないかと感じ、うれしく思うことがよくあった。

そして日々の教育活動を充実した実のあるものにするために、自分なりに努力した。年度末に休校措置がとられる等、全てが順調にいったわけではなく難しい局面もあったが、職員や保護者、地域の理解

と協力を得ながら令和元年度を乗り切ることができた。

振り返れば、今まで様々な職場を経験してきたが、その立場に関係なく、助けてもらい、学ばせてもらい、成長させてもらった。初任校では、先輩に自分の悩みや疑問をしつこく尋ねていたが、丁寧に指導や助言をしてくれた。また、生徒指導で困難な状況にあった時には、決して悲観することなく笑顔を忘れず、職員一丸となって生徒や保護者に関わっていくことを学ばせてもらった。その後もいくつかの学校や部署のお世話になったが、どこでも教えられることが数多くあり、それが、今の自分を作り上げてくれたと感謝している。

平成から令和に変わり、コロナ後も見据え、教育にも大きな変化が予想される。そのような中、本職の話ももらった。もちろん、「自分に務まるか」との不安もあり、任された職責を考えると重圧はあるものの、自分にとっての大きな転機ととらえ、育ててもらった多くの方々や、故郷日南への恩返しのためで引き受けることにした。

日南市の教育は、「他者から学ぶ力」「自ら学ぶ力」「自然から学ぶ力」「社会から学ぶ力」の「4つの学ぶ力」を生き方の基盤として、全ての教育をとおして学び、子どもたちが学力をはじめ人間力の基礎となるものを身に付けることを目指し、基本目標を「市民参加型の教育」「社会に適応し、自らの道を切りひらく教育」「自立できる社会人・職業人を育てる教育の推進」「魅力ある教育を支える体制や環境の整備・充実」「生涯を通じて学び、挑戦できる社会づくりの推進」としている。

日南市の未来を託せる子どもたちの育成や、市民一人一人が生涯を通じて自ら学ぶことができる環境づくりのために、今までの経験を活かして、小村寿太郎侯の掲げた精神である「誠の心で」「正直に」を胸に、微力ながら故郷日南のために尽力していきたいと強く思っている。

球けがれなく道険し

五ヶ瀬町立三ヶ所小学校 宇田津 浩一

明治8年に三ヶ所小学校ができた。庄屋跡の民家で一人の延岡藩士が十数名の子どもたちに読み書きを教授していたようだ。熱意のある先生を前に、子どもたちが目を輝かせ学ぶ姿が思い浮かぶ。

私は、創立145年の歴史と伝統のある三ヶ所小学校の56代校長として昨年春に赴任した。築約40年の平屋住宅は、住めば最高、隠れ家的なものだ。この住宅は、広木野地区にあり、学校までは約1.7km徒歩20分。通勤は、遠回りをしてGパーク沿いに歩き、国道218号線に出る。歩いているとクラクションを鳴らし五ヶ瀬中学校の校長先生が手を振ってくれる。車屋橋を右に曲がると、赤谷商店街のいつもの皆さんと挨拶を交わす。最後は、急勾配の学び坂、何度も上っているが息切れする。

「ワクワク感とニコニコ笑顔」をモットーに魅力ある学校づくりを進めている。新規採用教員が2年続けて赴任し、二人とも純粋な心でひたむきに教育に向き合っている。

「球けがれなく道険し」は、白球を追いかけていた頃に、自らを戒めるためにボールに書いた言葉で

ある。知っている方も多いと思うが、水島新司氏の漫画「球道くん」。その主人公「球道」の名前の由来になっている言葉である。白球のように汚れのない心で、真面目にコツコツと努力することを願って付けられた名前である。私の教職生活も、ひたすらにボールを追いかけて、目と歯以外は真っ黒になっていた、あの頃の汗や涙、努力があるから、これまで頑張ることができたのではないかと思う。

今年、子どもたちは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、最高の舞台で輝きを放つ夢を実現することができなかった。しかし、気持ちを切り換えて地区大会を頑張っている姿、前を向いている姿に勇気が出る。

そんなとき若い先生方が、私の言動で勇気が出ているか考える。「教育者としての道険し。」明日の自分を高めていけるよう五ヶ瀬の夕日を見ながら、ゆっくりと考えることにしよう。



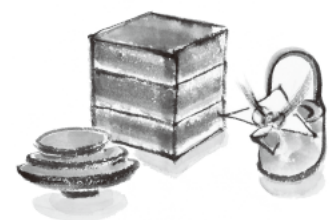
未来を創る子どもたちに

国富町立本庄小学校 沼田 重明

「空飛ぶ車」、「宇宙エレベーター」、AIをはじめとする技術の進化により、遠い未来の夢物語は今現実味を帯びてきた。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、社会のデジタル化が加速している。今後、学校もデジタル化が進めば、AIによる個別最適化で今よりも格段に個に応じた指導は充実するに違いない。しかし、同時に、人が人と関わっていくために必要な力をどのように付けていくのが問われる時代にもなるだろう。便利な世の中になればなるほど、これからの子どもたちには「我慢する力」を付けてあげることが必要だと思う。そういう意味で、「世界一貧しい大統領」と言われた元ウルグアイの大統領ホセ・ムヒカ氏の言葉が胸にしみる。「私は貧乏なのではなく、質素なんだ。貧乏というのは無限の欲があっていくら手に入れても足りないという人のことを貧乏というのだ。質素というのは自由のための戦いである。物であふれることが自由なのではなく、時間であふれることが自由なんだ。今の時代、自由とは欲望を追求することになってし

まった。」

昔、娘がまだ幼い頃、夕焼け空を見て「おしり痛くないのかなあ。」と言った。「何で？」と聞くと「だって真っ赤っかだもん。」と言ったのを思い出す。娘は自分がおむつかぶれで痛いとき、私たちから「あら、おしり真っ赤っかだね。」と言われていたのだ。AIはこんな時どのような反応をするのだろうか。私たちの心を豊かにしてくれるだろうか。これからの夢のような世界はAIなしでは実現できない。しかし、豊かさや幸せを感じるのは人の想像力である。言葉に表れない見えない部分を見てあげることが人間であり教師である私たちの大きな役目なのだと思う。人は人で育つ。未来に適応する子どもたちを育てるのではなく、未来を創る子どもたちを育てたい。



コロナ禍における伝統芸能や学校教育の在り方

日南市立大窪小学校 鳥原秀樹

新学習指導要領総則によると、「生産年齢人口の減少、グローバル化の進展、人工知能の進化などにより、子どもたちの将来は、予測困難な時代になると言われている。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、東京オリンピックの延期、経済界の混乱、台風・洪水の自然災害や熱中症対策、第2・3波も含め予測困難で解決できない時代に突入したと言える。

そんな中本校の伝統芸能の剣棒踊りは保存会と共に、学校として継承存続しなければならないと考えた。剣棒踊りとは約420年前秋月藩が串間市大平地区へ伝えた棒踊りで、校区の寺村地区へ伝承された伝統芸能である。例年、飢肥城下まつり、運動会や学習発表会で披露し、大平小学校と保存会の相互交流が続いている。剣棒踊りは3部で構成され、攻守の入れ替わりが速く、覚えるのが大変で、昨年校長として赴任した折には、「1年生が覚えるのは大変だ。」と難しさを感じた。5月から保存会の協力を得ながら段階的に覚え、飢肥城下まつりでは堂々と演舞し、割れんばかりの拍手を観客からいただいた。

児童に自信と誇りが満ち溢れ、極小規模校ではあるが剣棒踊りをとおして一人一人が「キラリ」と光る存在になっていることを知った。本年度は細田小との合同運動会と学習発表会の場で披露するが、充実した発表になることを期待した。5月の臨時休業から保存会と練習を始め、1年生も昨年同様難しさを感じたが、1番の型をマスターし、合同運動会では8人全員が心をひとつにして演技をすることができた。「やればできる。」という貴重な体験をとおして、学ぶ喜びや地域の伝統芸能のすばらしさを体感し、ふるさとを大事にする心を育成できた。

教育現場も今までどおりのリアルコミュニケーションとリモートによる教育が広がりつつある。伝統芸能の継承と同様コロナ禍における学校の在り方として、何を継承し何をスリム化していくかやオンライン学習も含め、「不易と流行」を熟慮する岐路に立たされている。



支会より

< 西臼杵支会 >

日之影町立日之影中学校 伊東泰彦

西臼杵支会は、高千穂町8校、日之影町4校、五ヶ瀬町5校の計17小中学校で構成されている。九州山地中央部の中山間地に位置するため、ほとんどが小規模校であり、今後も進むであろう少子化や人口流出などの課題とどう向き合っていくかが、各校・各地区の課題である。

本年度でいえば、昭和22年に創設され74年の歴史を刻んできた高千穂町立田原中学校が、次年度より高千穂中へと統廃合される予定となっている。

『ここに学校があった』に掲載されている学校が本地区には多い。一方で、豊かな自然や歴史、伝統芸能などがしっかりと保存・継承されており、近年ではGI A H S（世界農業遺産）を切り口とした新たな教育活動も盛んに行われている。子どもは地域の宝として地域との協働によって大事に育てられており、教育を取り巻く環境はかなり質が高い地域である。また、本地区に赴任すると、「学校規模が小さいことは、実は大きなスケールメリットである」と実感する。町教育委員会の手厚い支援や地域との強

力な連携によって、思い切った教育活動の展開が可能であり、各校ともそのメリットを生かした特色ある教育をアップデート中である。

支会全体での研修は年間2回である。私を含め校長として初めて赴任した者の多い本支会においては、こうした研修や情報交換が貴重な職能アップの機会となっている。今年度2回目の研修は、旭有機材の伊東洋之氏（現延岡市教育委員会）を講師に12月実施としている。伊東氏の多彩な角度からの提言をヒントに、「中山間地×小規模校」における更なる教育活動の拡充や学校経営の改善に取り組み、できればそれを、本地区に赴任している若手・中堅教職員の人材育成へと還元していけるよう努めたい。



〈 宮 崎 支 会 〉

木花中学校長 矢野 義 継

宮崎支会中学校長会は、宮崎市25校、国富町3校、綾町1校、宮崎大学教育学部附属中学校、宮崎西高等学校附属中学校の計31の中学校で構成されており、年間7回の研修会を実施しています。研修会では、県の理事会や専門委員会からの連絡や報告で、共通理解を図るとともに、3つのブロックに分かれて、県校長会の研究テーマを踏まえた調査・研究に取り組んでいます。

今年度は、コロナ禍にあって、会を開くことが難しい状況もありましたが、市や町の教育委員会等、関係各位のご配慮をいただき、今年も計画どおりに事業が進められています。

研修会では、学校経営に関わる様々な事案についての協議や、情報交換も行われますが、今年の話題は何といても「新型コロナウイルス対策」です。

「消毒をどうするのか?」、「体育大会や文化発表会はどうするのか?」、「修学旅行は?」…等、様々な課題が一気に学校に押し寄せてきました。前例が

まったくなく、途方に暮れそうになる中、最も心強かったのは、支会の31名の仲間(会員)の存在です。

宮崎支会は学校数も多く、校長としての経験年数も比較的長い方が多いです。また、1市2町の公立学校の中には、国立や県立の学校も含まれるとともに、学校規模や地域性も幅広いものがあります。このように、会員の先生方の豊富な経験に基づく様々なアイデアや事例、危機管理の方法等について、幅広い視点から多くの意見が出され、それらの意見交換をとおして、それぞれが自分の学校にあった方向性を見だし、進んできました。個人的見解かもしれませんが、今年ほど支会研修会の開催される日が待ち遠しい年はありませんでした。

今後も、宮崎支会中学校長会は、会員の多さと経験の豊かさを強みとしながら、全員で知恵を出し合い、学校経営上の様々な課題に立ち向かっていきたいと考えています。

〈 日 南 支 会 〉

日南市立南郷中学校 羽木 一 利

日南支会は、「日南支会校長会研究会」の名称で、日南市内の小学校12校、中学校6校、小中一貫校3校で構成されている。研究会は年に7回(本年度は第2回が中止)で、会場持ち回りで実施している。全体会後の中学校部会には、情報交換の目的で串間市立串間中学校にも参加を依頼している。

通常の研究会においては、初めに県校長会理事会の報告がなされ、次に諸課題について協議を進める。本年度当初は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休業についての課題や対応についての協議が多く行われたが、それぞれの学校の対応を聞くことで自校の課題解決の参考となるが多かった。

研究においては、本年度の県校長研究大会に向けて昨年度から小学校が学校経営の評価と改善、中学校がキャリア教育について研究を進めてきた。県大会の中止を受け、吾田小学校の松田康宏校長と飢肥中学校の野協浩文校長が紙上発表となった。次年度は、小学校が「自立と共生」、中学校が「学校と地

域の連携・協働」で発表の準備を進めている。

また、本支会は日南市退職校長会と夏季合同研修会を毎年行っているが、昨年度は台風接近、本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために2年続けて中止となった。現職校長会と退職校長会が連携や情報交換等を深めていくためにも継続していききたい。

本支会の特徴は、何より雰囲気がいいところである。私は昨年新任校長として赴任してきたが、この日南支会の明るく優しい校長先生方に、学校経営上の悩みなど何でも相談することができたことは大変ありがたい、感謝感謝である。本年度は、当初の懇親会が中止になり、少々不安な気持ちでのスタートとなったが、今では、コロナ禍等での課題解決に向けて気兼ねなく相談し合える、いつもの温かい日南支会となっている。



編集後記

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、本年度最後となります宮崎県校長会広報紙214号をお届けします。今回は特別寄稿といたしまして、日南市教育委員会都甲政文教育長にご執筆いただきました。表題は「誠の心で 正直に」。都甲教育長のお人柄や郷土愛が行間にあふれる御寄稿でした。是非多くの校長先生方に読んでいただきたいと思っております。公務御多用の中、誠にありがとうございました。

また、会員コーナーや支会だよりを執筆いただいた西白杵・宮崎・日南の各支会の皆様、編集にあたって御支援・御協力をいただいた日南市教育委員会関係者の方や西白杵・宮崎・日南支会の広報担当の皆様もありがとうございました。

コロナに明け暮れた昨年でしたが、新しい年が皆様にとって素晴らしい年になりますことを心よりご祈念申し上げます。